

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203583		
法人名	株式会社エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム己斐みどりの家		
所在地	広島県広島市西区己斐上4-29-16 (電話) 082-275-0010		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470203583-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470203583-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東 4丁目11番13号
訪問調査日	平成30年3月22日(木)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・タイムスケジュールに囚われずご自身の家にいられる様にゆったり過ごしていただける柔らかい雰囲気作りに努めている。家族の様な関わりが出来ている。  
・職員は入居者様の状態に合わせた食事形態や薬の飲み方、介助方法などを話し合い柔軟に対応できる様指導している。  
・ご家族様とホームが協力し入居者様を支えている。入居＝疎遠ではなく良好な関係が保てている。家族会への参加も多くなっている。  
・ユニットごとの隔たりがなく、ホーム全体として考えている。全職員が全ての入居者様と関われる様にシフトチェンジの体験や行き来が多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム己斐みどりの家は住宅街にあり静かな環境に位置している。御近所からは野菜の差し入れ等あり、食事は3食手作りで温かい食事を提供している。ユニットごとに施設職員が献立を作成し、食材は主に業者より週1回仕入れ、他に生協・地元の八百屋から仕入れ、利用者の状況に合わせて調理したものを提供している。職員が町内会の夏祭りのお手伝いをし、利用者が参加したり、とんど祭りに参加したりと地域と交流している。又、中学生の職場体験を2校受け入れをしており、利用者と歌や会話で交流している。全体ミーティング・フロアミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を持たれている他、職員ひとり一人の意見や気づきが言いやすい工夫をされ、イベントの企画、勤務環境の整備等、職員の意見や提案を運営に反映している。利用者のその人らしさを大切にされ、楽しみごとや活躍出来る場面作りをされ、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。

グループホーム己斐みどりの家（1F）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の基本理念である「ゆつくり いっしょに たのしく」を誰にでも目にとまるように、リビングの中央に掲示し、日々実践に努めている。新人研修でも先ずこの理念について学ぶようになっている。	法人理念「ゆつくり・いっしょに・たのしく」をリビング・事務所内に掲示して、その理念を共有し実践している。ユニット目標「きびしい状況の中、事故のない日々でありますように」を作成して介護目標が共有され、意識向上に努めている。会議では理念について話し合わせ職員全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域ボランティアの方が毎月来訪して下さっている。地域の行事にも参加している。ホームの外を歩く近所の方や子どもたちがホーム内の入居者様と目が合うと手を振ったり、会釈して下さる。近所の方が畑で取れた野菜など差し入れして下さる。	町内会に加入していて、地域行事（とんど祭りや餅つき）に積極的に参加している。夏祭りでは露店を出して地域と交流している。地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、ひやりはつとや事故の事例を通し、認知症について話し、質問に答えている。又、管理者は地域包括主催の認知症ケアカフェのプロジェクトに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二カ月に一度ホームで開催し、町内会長、民生委員、入居者様ご家族、地域包括支援センター、中学校の先生等に参加して頂き、ホームでの課題、問題を提議し意見を頂いている。又、地域の行事のお誘いや防災などについての話も出る。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・入居者・家族・中学校教頭先生等に参加して頂いて状況報告、行事計画及び報告、事故報告、避難訓練報告等を行い、意見を聞きサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターとの関係良好。生活課との関係良好。生活課とも連絡を取っている。又、生活保護、介護保険に関する不明点や対応に関して入居者様の家族様からの質問や相談など対応に苦慮していることは、相談し、助言を頂いている。	市担当者とは、電話や直接出向いて情報交換をしたり、事故報告や運営上の問題、疑問点等、その都度市へ相談して助言を得ている等、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議等を通して、相談し助言を得ている等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待、身体拘束防止に関する外部研修に参加し、その内容を職員に伝える場を設けて実践している。新人スタッフにはホーム長がきちんと説明し、正しく理解できるようにしている。	身体拘束排除についてのマニュアルがあり職員は内部研修で学び、身体拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、職員同士で話し合ったり、気づいた時に管理者が指導している。玄関口は出た所が傾斜のある道路の為施錠している。利用者の言動等から外出したい事を察した場合は利用者に寄り添って行動を共にし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア向上委員を設置し、ミーティングでは問題定義し話し合っている。管理者は虐待防止研修に出席し、内容を全職員で共有している。入浴スタッフは入居者様の体に異変がないか必ず確認している。		

グループホーム己斐みどりの家（1F）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	福祉サービス利用援助事業「かけはし」を利用されている入居様がおられるため、日頃より意見、助言をしていただく機会がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にはご家族様に十分納得していただけるように、十分に時間をかけて説明を行っている。ホームの管理者、エリアマネージャーが同席し、サポートしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年二回ホームで家族会を開催し、運営報告を行っている。意見や要望をお聞きし、職員全員で共有している。又、他ホームで発生した事案なども回覧され、反映されている。	運営推進会議参加時や行事や年2回の家族会への参加時に家族の意見や要望を聞いている。面会時の日常会話から要望や相談が聞けるような雰囲気を作っており、要望があればその都度対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催される全職員が参加する全体ミーティング等で事例検討会を開催している。日頃から職員同士のコミュニケーションが円滑で、異なるユニット同士でも意見を言い合える職場環境が整っている。	管理者は日頃から気づきや意見を気軽に言えるような雰囲気づくりに努めている。フロアーミーティング・全体ミーティングでの意見交換等行い出た意見については検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人の環境を考慮し、業務体制、キャリアパスを構築し、職員の要望にできる限り応えられるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部、法人内部の研修案内は事業所の誰もが見られる所にファイルされており、参加の呼びかけを積極的に行っている。毎月テーマを決めて勉強会を開催し、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループの勉強会に機会があれば参加している。同法人内の他事業所との情報、意見交換は日ごろから行われている。管理者は毎月法人の各ホーム長の集まる会議に出席し、情報交換やサービス向上の為の話し合いの機会を持っている。		

グループホーム己斐みどりの家（1F）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはホーム長、職員が何度も面会し、ご本人様、ご家族様からの要望をお聞きしている。ご本人様の今まで生きてこられた歴史を大切にできるよう努めている。聞き取った内容は全職員が共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人様同様、聞き取り、関わりを通して信頼関係を構築している。ホーム側からお声掛けするなどして、話しやすい雰囲気になるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族様の想いの傾聴に努め、納得できる支援方法を探す努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念に沿い、職員は「介護している」と思うのではなく、「互いを尊重し合い、一緒に時を過ごし、同じ場所で一緒に楽しく生活している」ことを念頭に置いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	気軽にホームに来ていただける環境作りに努めている。月に一度ホームで通信を作成したり、手紙や電話で近況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽にホームに来ていただける環境作りに努めている。手紙や電話での連絡を取っている。外出の際は、その方の馴染みのある場所を通るなど工夫している。	地域のお祭りや、行事に参加した時には友人や知人と懐かしそうにお話されている。馴染みの美容院へ行かれたり、家族の面会、親戚の人や友人、元職場の仲間、近所の人等の来訪がある他、電話・手紙等での交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの関係性を把握し、その時の表情や発言からお気持ちに寄り添いながら、周囲との交流が出来るよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された後もホームに差し入れて下さったり、相談に来られるご家族様がいらっしゃる。		

グループホーム己斐みどりの家（1F）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の発する何気ない言葉や表情に注視し、生活日誌に記録し、ご要望を推測したり、直接聞いたりしている。お話が困難な方は表情やしぐさから読み取るよう努めている。	日頃の関わりのなかでの利用者の言葉や様子、表情を生活日誌に記録し、利用者を担当する職員や計画作成担当者、管理者を中心にカンファレンスを行って検討し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は以前からの様子や好み、日頃の表情や態度から推し量り、全職員で何度も話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報シート、生活歴が把握の一步だが入居されてからご本人と関わっていくうえで出てくる話の内容などを記録し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	変化したこと最近のご様子を生活日誌に書き留める。日々変化している方もいらっしゃるので、ケアも日々変わる事があるので統一したケアが出来るよう引継ぎ帳を活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	事例検討の内容、日々の気づき、ご家族様、看護師、主治医、歯科医などの意見を介護計画に活かしている。	計画作成担当者は、利用者毎のアセスメント・生活日誌で、現状で最も必要とされる課題やニーズを抽出し、医師・看護師等の意見を取り入れて介護計画を作成している。職員は、コンパクトにまとめられた計画の要点を認識し、計画の実施記録をチェック表に記入している。職員が定期的にカンファレンスを行い、6ヶ月又は、状態の変化に応じて随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな気づきでもスタッフが発言し記録し、職員で共有している。それに合わせ柔軟にケアの変更を検討をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方にとって何が一番大切かを考え、事業所、ご家族様、他職種と連携、話し合いを持ち柔軟性を持って取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方がボランティアに来て下さる事が多い。地域の行事にも参加させて頂いているが高齢、認知症の進行などに伴い十分でないこともある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による定期的な往診があり、どんな時にも迅速に対応して頂いている。看護師資格を有する職員のサポートもある。	利用者が希望するかかりつけ医又は、利用者・家族の納得を得て協力医療機関2ヶ所にかかりつけ医となっている。歯科は必要に応じて往診がある。往診や他科受診を含めて家族に対応をお願いしたり、事業所で支援している。かかりつけ医は24時間対応してくれ、訪問看護と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム己斐みどりの家（1F）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は日々の気づきを看護師に報告している。相談や処置、緊急対応は常時電話で受けてくれており、助言や対応をしてきているため入居者様への支援がスムーズである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から紹介の時点から連携が出来ており、管理者、職員、看護師は病院へ面会へ行き病院関係者と情報交換できている。大きな治療がない以外、早期退院を目指し主治医へ引継ぎ生活の中での回復を支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態、体調の変化、また段階に応じて、ご家族には常に報告を行っている。ご本人の事前のお気持ちやご家族の意向を確認し主治医、看護師、介護職員が同席しご家族に十分説明できる場を持ち、終末に向けたプランを作成している。	終末期に対する施設としての基本姿勢を詳細に家族に説明し、理解を頂くようにしている。医師、家族との連携も漏れのない対応が行われている。実際に重度化した場合は早い段階から家族や主治医、訪問看護師と話し合い、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。看取りを希望の場合は訪問看護師と協力してチームで支援に取り組んでいる。今年度3名の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	普通救命講習の研修は定期的に行っている。全体ミーティング内の勉強会では、連絡系統の明確化、急変時の対応シミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署立ち合いのもと夜間想定を含めた避難訓練を実施している。防災委員会の職員が運営推進会議の際に地域の方々に協力をお願いしている。	消防署の協力を得て年2回の訓練のうち1回は消防署立会いの下行われ、1階は消防署主催の訓練に参加している。昼夜間の火災想定、地震を想定した消火、通報、避難訓練を実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護者、被介護者ではなく対人として、時には家族のように入居者様を尊重し、敬意を持って関わろう心掛けています。個人情報ファイルは施錠可能なキャビネットで管理している。	接遇研修や内部研修で学び、人生の先輩として尊敬の念を持って利用者へ接し、人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。排泄に関する声掛けはさり気なく行い、入浴の際は肌が直接外部から見えないように配慮し、プライドを傷つけないように配慮している。不適切な発言等あれば、管理者・ユニットリーダーからの指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の日頃の思いや希望を普段の会話や態度から察し、その上で思いを尊重できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の今までの歴史や個性を大切に制止することなく、自由に、その方のペースで生活できるよう支援している。		

グループホーム己斐みどりの家 (1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洗面所のミラーの前で整容していただいたり、服や靴下を選んでいただいたりしている。2ヶ月に1度の訪問理容では、ヘアカットだけではなくメイクもお願いし、写真を撮っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを入居者様に伺ったり、旬のものを食べていただき季節を感じてもらえる努力をしている。食事の準備、配膳、片付けは入居者様と無理のない程度に行っている。職員も同じテーブルに着き同じものを食べ、おしゃべりしながら楽しい食事となっている。	食事は3食とも手作りで、献立は職員が考えて作っている。利用者は盛り付け、配膳、テーブル拭き、下膳、食器拭き等出来る事を職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、食材等を話題に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事担当の職員は栄養バランスチェックシートに基づき献立を決定している。お茶のお替りの声掛けを積極的に行っている。お茶がなかなか飲めない方にはスポーツドリンクでゼリーを作り不足分を補っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、自立の方には声掛けをし、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。毎月2回の歯科往診の際に先生にアドバイスをいただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の状況を生活日誌に記録し、各入居者様の排泄ペース、量、便の状態の把握を行ったり、尿取りパットの種類を検討したり自立に向けた支援をしたりしている。	排泄チェック表を利用して、それぞれの排泄のサインを見逃さないようにして、その方の排泄状況の把握に努め、トイレ誘導を行い出来る限りトイレで排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活日誌の他に排便チェック表を付けて把握している。排便ペースもそれぞれ異なるため、状況によっては看護師に相談し助言をもらい実行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を付け、偏りのないように支援しているが、決め事はなく、できるだけ入居者様の希望に沿えるようにしている。1階の入浴がどうしても難しい場合は2階の職員が2階で入浴介助をしてくれる時もある。その逆もある。	入浴は週2回行われ利用者ひとり一人の希望に合わせて、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴を希望されない場合には、声を掛けるタイミングを工夫したり、他の職員で対応し、無理強いせず、個々に応じた入浴ができるように努めている。利用者の状態に合わせて、シャワー浴・清拭・足浴で、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の習慣やその日の、その時の体調や気分を汲み取り、必要な休息をとっていただいている。夜間、必要であれば体位交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく処方された薬などは効果や副作用を引継ぎノートで周知し、職員が把握できるようにしている。担当薬剤師との関係が良好なため、詳しい説明を聞く事ができる。服薬方法も入居者様の嚥下状態などを考慮し、トロミの水や粉碎、ゼリーでの服用など工夫している。		

グループホーム己斐みどりの家 (1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の歴史や普段のおしゃべりからお好きなものを見つけ、楽しんでいただけるよう支援している。小さな事だが、マッサージをして差し上げたり、おやつを手作りしたり心の満足を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出行事である夏祭り、とんど祭りなどの支援、個別に買い物や近所の公園までの散歩はできているが、スタッフ不足や入居者様のADLの低下の為困難なのが現状。車いすごと乗車できる車になったことや、本社の職員に協力してもらい外出の機会を増やしていきたい。	天気の良い日は可能な限り、屋外に出られるような支援をしているが拒否があったり、筋力低下や重篤症状があり、危険を伴う場合もある為、事故のないように気を付けている。花見には近隣へ時には車にてドリモーションを見に行ったり、地域行事に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はお預かりしていないが、ご家族の了承の上でお小遣いを持たれ、買い物同行の際に自ら支払される方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも電話を掛けていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	庭の季節の花や季節の手作りの作品を玄関に飾ったり、折り紙教室やレクリエーションで作成した作品をリビングに飾っている。	リビングはとても明るく、季節に合った花や工作物等で季節感を醸し出し、利用者の施設内で過ごしやすい工夫がされている。廊下には利用者が行事に参加した時の写真や利用者や職員で作った貼り絵が飾られたり、カーブグッズが貼ってあり、家で暮らしているという心の安らぎを与える。又、温度・湿度が管理され空気清浄機も設置してあり居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席でぼんやり外を眺める事ができたり、気の合った入居者様が隣同士で座りながらテレビを観たり、ボール遊びができるようソファの位置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはなるべく使い慣れたなじみの家具や家族写真などをお持ちいただけるようご家族にお願いしている。また、敬老の日やクリスマスなどの行事の際にスタッフがメッセージを添えた手作りカードなどをお部屋に飾らせていただいている。	利用者の居室には仏壇・筆筒・鏡台・椅子・テーブル・ソファ等使い慣れたものや好みのものを持ち込まれ、家族の写真・人形・カレンダー等も飾られ本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用空間では、どのような場所であっても入居者様が自由に使えるように改良してきた。掃除をしたい方のために用具を低い位置に置いたり、台所へも自由に入っていただけるように見守りしている。おしゃべりしたい方のために誰でも使用できるヘアブラシなどの備品にも気を配っている。		

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の基本理念である「ゆっくり いっしょに たのしく」を誰にでも目にとまるように、リビングの中央に掲示し、日々実践に努めている。新人研修でも先ずこの理念について学ぶようになっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域ボランティアの方が毎月来訪して下さっている。地域の行事にも参加している。ホームの外を歩く近所の方や子どもたちがホーム内の入居者様と目が合うと手を振ったり、会釈して下さる。近所の方が畑で取れた野菜など差し入れて下さる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、ひやりはっとや事故の事例を通し、認知症について話をし、質問に答えている。又、管理者は地域包括主催の認知症ケアカフェのプロジェクトに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二カ月に一度ホームで開催し、町内会長、民生委員、入居者様ご家族、地域包括支援センター、中学校の先生等に参加して頂き、ホームでの課題、問題を提議し意見を頂いている。又、地域の行事のお誘いや防災などについての話も出る。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターとの関係良好。生活課との関係良好。生活課とも連絡を取っている。又、生活保護、介護保険に関する不明点や対応に関して入居者様の家族様からの質問や相談など対応に苦慮していることは、相談し、助言を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待、身体拘束防止に関する外部研修に参加し、その内容を職員に伝える場を設けて実践している。新人スタッフにはホーム長がきちんと説明し、正しく理解できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア向上委員を設置し、ミーティングでは問題定義し話し合っている。管理者は虐待防止研修に出席し、内容を全職員で共有している。入浴スタッフは入居者様の体に異変がないか必ず確認している。		

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	福祉サービス利用援助事業「かけはし」を利用されている入居様がおられるため、日頃より意見、助言をしていただく機会がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にはご家族様に十分納得していただけるように、十分に時間をかけて説明を行っている。ホームの管理者、エリアマネージャーが同席し、サポートしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年二回ホームで家族会を開催し、運営報告を行っている。意見や要望をお聞きし、職員全員で共有している。又、他ホームで発生した事案なども回覧され、反映されている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催される全職員が参加する全体ミーティング等で事例検討会を開催している。日頃から職員同士のコミュニケーションが円滑で、異なるユニット同士でも意見を言い合える職場環境が整っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人の環境を考慮し、業務体制、キャリアパスを構築し、職員の要望にできる限り応えられるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部、法人内部の研修案内は事業所の誰もが見られる所にファイルされており、参加の呼びかけを積極的に行っている。毎月テーマを決めて勉強会を開催し、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループの勉強会に機会があれば参加している。同法人内の他事業所との情報、意見交換は日ごろから行われている。管理者は毎月法人の各ホーム長の集まる会議に出席し、情報交換やサービス向上の為の話し合いの機会を持っている。		

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはホーム長、職員が何度も面会し、ご本人様、ご家族様からの要望をお聞きしている。ご本人様の今まで生きてこられた歴史を大切にできるよう努めている。聞き取った内容は全職員が共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人様同様、聞き取り、関わりを通して信頼関係を構築している。ホーム側からお声掛けするなどして、話しやすい雰囲気になるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族様の想いの傾聴に努め、納得できる支援方法を探す努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念に沿い、職員は「介護している」と思うのではなく、「互いを尊重し合い、一緒に時を過ごし、同じ場所で一緒に楽しく生活している」ことを念頭に置いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	気軽にホームに来ていただける環境作りに努めている。月に一度ホームで通信を作成したり、手紙や電話で近況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽にホームに来ていただける環境作りに努めている。手紙や電話での連絡を取っている。外出の際は、その方の馴染みのある場所を通るなど工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの関係性を把握し、その時の表情や発言からお気持ちに寄り添いながら、周囲との交流が出来るよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された後もホームに差し入れて下さったり、相談に来られるご家族様がいらっしゃる。		

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の発する何気ない言葉や表情に注視し、生活日誌に記録し、ご要望を推測したり、直接聞いたりしている。お話が困難な方は表情やしぐさから読み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報シート、生活歴が把握の一步だが入居されてからご本人と関わっていくうえで出てくる話の内容などを記録し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	変化したこと最近のご様子を生活日誌に書き留める。日々変化している方もいらっしゃるので、ケアも日々変わる事があるので統一したケアが出来るよう引継ぎ帳を活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	事例検討の内容、日々の気づき、ご家族様、看護師、主治医、歯科医などの意見を介護計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな気づきでもスタッフが発言し記録し、職員で共有している。それに合わせ柔軟にケアの変更を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方にとって何が一番大切かを考え、事業所、ご家族様、他職種と連携、話し合いを持ち柔軟性を持って取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方がボランティアに来て下さる事が多い。地域の行事にも参加させて頂いているが高齢、認知症の進行などに伴い十分でないこともある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による定期的な往診があり、どんな時にも迅速に対応して頂いている。看護師資格を有する職員のサポートもある。		

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は日々の気づきを看護師に報告している。相談や処置、緊急対応は常時電話で受けてくれており、助言や対応をしてくれているため入居者様への支援がスムーズである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から紹介の時点から連携が出来ており、管理者、職員、看護師は病院へ面会へ行き病院関係者と情報交換できている。大きな治療がない以外、早期退院を目指し主治医へ引継ぎ生活の中での回復を支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態、体調の変化、また段階に応じて、ご家族には常に報告を行っている。ご本人の事前のお気持ちやご家族の意向を確認し主治医、看護師、介護職員が同席しご家族に十分説明できる場を持ち、終末に向けたプランを作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	普通救命講習の研修は定期的に行っている。全体ミーティング内の勉強会では、連絡系統の明確化、急変時の対応シミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署立ち合いのもと夜間想定を含めた避難訓練を実施している。防災委員会の職員が運営推進会議の際に地域の方々に協力をお願いしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護者、被介護者ではなく対人として、時には家族のように入居者様を尊重し、敬意を持って関わるよう心掛けている。個人情報ファイルは施錠可能なキャビネットに管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の日頃の思いや希望を普段の会話や態度から察し、その上で思いを尊重できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の今までの歴史や個性を大切に制止することなく、自由に、その方のペースで生活できるように支援している。		

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洗面所のミラーの前で整容していただいたり、服や靴下を選んでいただいたりしている。2ヶ月に1度の訪問理容では、ヘアカットだけではなくメイクもお願いし、写真を撮っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを入居者様に伺ったり、旬のものを食べていただき季節を感じてもらえる努力をしている。食事の準備、配膳、片付けは入居者様と無理のない程度に一緒に行っている。職員も同じテーブルに着き同じものを食べ、おしゃべりしながら楽しい食事となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事担当の職員は栄養バランスチェックシートに基づき献立を決定している。お茶のお替りの声掛けを積極的に行っている。お茶がなかなか飲めない方にはスポーツドリンクでゼリーを作り不足分を補っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、自立の方には声掛けをし、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。毎月2回の歯科往診の際に先生にアドバイスをいただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の状況を生活日誌に記録し、各入居者様の排泄ペース、量、便の状態の把握を行ったり、尿取りパットの種類を検討したり自立に向けた支援をしたりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活日誌の他に排便チェック表を付けて把握している。排便ペースもそれぞれ異なるため、状況によっては看護師に相談し助言をもらい実行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を付け、偏りのないように支援しているが、決め事はなく、できるだけ入居者様の希望に沿えるようにしている。2階の入浴がどうしても難しい場合は1階の職員が1階で入浴介助をしてくれる時もある。その逆もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の習慣やその日の、その時の体調や気分を汲み取り、必要な休息をとっていただいている。夜間、必要であれば体位交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく処方された薬などは効果や副作用を引継ぎノートで周知し、職員が把握できるようにしている。担当薬剤師との関係が良好なため、詳しい説明を聞く事ができる。服薬方法も入居者様の嚥下状態などを考慮し、トロミの水や粉碎、ゼリーでの服用など工夫している。		

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の歴史や普段のおしゃべりからお好きなものを見つけ、楽しんでいただけるよう支援している。小さな事だが、マッサージをして差し上げたり、おやつを手作りしたり心の満足を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出行事である夏祭り、とんど祭りなどの支援、個別に買い物や近所の公園までの散歩はできているが、スタッフ不足や入居者様のADLの低下の為困難なのが現状。車いすごと乗車できる車になったことや、本社の職員に協力してもらい外出の機会を増やしていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はお預かりしていないが、ご家族の了承の上でお小遣いを持たれ、買い物同行の際に自ら支払される方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも電話を掛けていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	折り紙教室やレクリエーションで作成した作品をリビングに飾ったり、季節に応じた塗り絵の切り絵を壁に飾ったりし季節感を味わっていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席でぼんやり外を眺める事ができたり、気の合った入居者様が隣同士で座りながらテレビを観たり、ボール遊びができるようソファの位置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはなるべく使い慣れたなじみの家具や家族写真などをお持ちいただけるようご家族にお願いしている。また、敬老の日やクリスマスなどの行事の際にスタッフがメッセージを添えた手作りカードなどをお部屋に飾らせていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用空間では、どのような場所であっても入居者様が自由に使えるように改良してきた。掃除をしたい方のために用具を低い位置に置いたり、台所へも自由に入ってもらえるように見守りしている。おしゃべりしたい方のために誰でも使用できるヘアブラシなどの備品にも気を配っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム己斐みどりの家 (1F)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム己斐みどりの家 (2F)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム己斐みどりの家

作成日 平成 30 年 3 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	入居者様の状態が悪く緊急時対応が求められる事が多い中、経験の浅い職員は判断、行動に移す事が難しい。	全職員が急変時に行う判断能力を身に着ける。	ミーティング内で具体例を組み込んだ勉強会を行う	3ヶ月以内
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。